



探究1期生（44回生） 1年目のBRIDGEお疲れ様でした。



1年間のBRIDGE（探究学習）のふりかえりをしました。

“答え”より、“考えるプロセス”を大切に！！

1年間のBRIDGEを体験し、生徒のみなさんの多くは、答えのない探究活動に困りましたね。当たり前です。勉強と探究は学びの概念（学習観）が大きく異なり、生徒の学び方や教師の役割も違うからです。例えば、学び方の違いで言うと、勉強は、受動的な浴びる学習（決められた知識・技能を習得する）、答えのある学習です。しかし、探究は能動的な探す学習（自分で取り組むテーマや問いを決める）です。だからこそ、初めて取り組む学習者である生徒も教える教員も、探究学習に困惑したり、不安や不信を抱いてしまうのです。しかし、探究学習は、複雑で予測困難なこれからの時代（VUCA時代）に合致した教育方法であると言われています。学習者も指導者も共に学習観のマインドセットが求められているのです。



引用：<https://www.dodadsj.com/>

南高SDGs総選挙・1年間のBRIDGEを終えて

★ 身近なことにも、気づいていないだけでたくさんの問題点があるということに気づくことができた。今まで探究めんどくさいなと思っていたけど、TRICOLORの方のお話を聞いて探究はこの先に役立っていくということを知ることができたし、今この探究活動を行っているということがとても貴重な体験をしているということに気づいたので、これからは探究活動ができていくことに感謝して頑張っていきたいと思いました。（1年3組生徒）

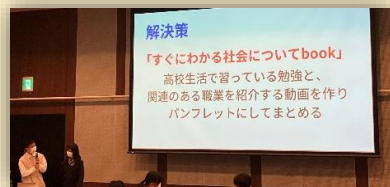


★ 社会にでて就職したりすると、答えのない問いを追求していく、という話をきいて、それは社会にでてからに限らないとおもった。学校でも、どうやったら部活でうまくやっていたら、どうやったらよりよい学校生活がおくれるか、など、日々答えのない問いに我々は直面している。30回生の方々の話をきいて、学校でのこの問いを解くことは、社会で問いを解くための練習なんだとおもった。これからも答えのない問いを日々探究していきたい。（1年4組生徒）

左図「BRIDGEで学んだこと（ふりかえりより）」

PICKUP

学校外の仲間と「SPIRAL」（NPO法人アスクネット主催）で5か月間、探究活動を行ってきた1年生前原君、林さんが3月21日（火）祝日ウィーク愛知にて最終発表を行いました。前原君のチームのテーマは「教育」林さんのチームは「伝統産業」でした。前原君のチームは、高校生の勉強がどんな職業と繋がりが深い



いかを調査し、動画やパンフレットを作成しました。林さんのチームは、有松絞りの後継者不足を解決するために、まずは有松に関心を持ってもらおうと「有松謎解きツアー」を企画し実施しました。フィールドワークなど情報収集を精力的に行い、素晴らしい探究活動ができました。